

各関係機関団体の長 } 殿  
各病虫害防除員 }

福岡県病虫害防除所長

平成23年度病虫害発生予報第6号（9月）について

このことについて、病虫害発生予報第6号を発表したので送付します。

予報第6号

**果樹のチャバネアオカメムシと大豆のハスモンヨトウの発生状況に注意して、防除を徹底しましょう！**

本年のチャバネアオカメムシは、9月以降発生が多くなる「後期発生型」と予想されます。各地に設置されている予察灯の誘殺状況と、果樹園への飛来状況に注意して、適期防除に努めてください。

また、8月5半旬の調査では、大豆ほ場でのハスモンヨトウの密度が高くなっています。フェロモントラップの誘殺状況やほ場での発生状況に注意して、適正な防除を行ってください。



カキ果実上のチャバネアオカメムシの成虫



ハスモンヨトウ 6 齢幼虫

＜予想される向こう1か月の天候（平成23年8月27日～9月26日）＞

平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

向こう1か月の気温は平年並か高く、降水量、日照時間は平年並でしょう。

週別の気温は、1週目は平年並か高く、2週目は平年並か低く、3週目以降は平年並か高いでしょう。

向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）

要素	低い（少ない）	平年並	高い（多い）
気温	20	40	40
降水量	30	40	30
日照時間	30	40	30

（福岡管区气象台 平成23年8月26日発表抜粋）

9月における主な病害虫の発生動向は、次のように予想されます。

主な病害虫の発生予報概要

作物名	病害虫名	発生量 (現況)	発生量 (9月の発生予報)	
		平年比	平年比	前年比
水稲	いもち病	多	やや多	やや多
	紋枯病	少	少	少
	トビイロウンカ	少	少	少
	コブノメイガ	少	少	少
	斑点米カメムシ類	並	並	並
大豆	ハスモンヨトウ	やや多	やや多	やや多
	吸実性カメムシ類	並	並	並
かんきつ	黒点病	少	やや少	やや少
	ミカンハダニ	並	並	並
かき	炭疽病	やや多	やや多	やや多
	フジコナカイガラムシ	並	並	並
果樹共通	カメムシ類	やや少 (前年比)	やや少 (平成20年比)	並
茶	炭疽病	並	並	並
	もち病	やや少	並	並
	輪斑病	並	並	並
	チャノコカクモンハマキ	やや少	やや少	やや少
	チャノホソガ	少	少	並
	チャノミドリヒメヨコバイ	並	並	並
	カンザワハダニ	少	やや少	やや少
	チャノキイロアザミウマ	やや少	やや少	やや少
イチゴ (育苗期)	炭疽病	やや多	やや多	やや少
	ハダニ類	少	やや少	やや少

注①：果樹共通・カメムシ類の発生量の平年比は、年次変動が大きいいため、現況については前年比、9月の発生予報については、発生状況が類似している平成20年比としている。

# 作物別発生予報

注①：この予報は病害虫防除所の現地調査結果に基づき、情報作成会議を経て作成しています。

注②：予報の根拠の末尾の（ ）書きは、（+）は発生を助長する要因、（-）は発生を抑制する要因、（±）は発生の助長及び抑制に影響の少ない要因であることを示します。

## 【普通作物：水稻】

### 普通期水稻

#### 1 いもち病（葉いもち・穂いもち）

##### (1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや多

##### (2) 予報の根拠

ア 8月5半旬調査の結果、発生量は平年より多かった（+）。

しかし、病斑の殆どが下位葉に発生し、発病株率、発病度ともに減少傾向であった（-）。

発病株率 17.5%（平年 3.1%、前年 4.2%）

発病度 4.4（平年 0.8、前年 1.1）

発生ほ場率 59.6%（平年 23.3%、前年 38.8%）

なお、発生状況は、地域・ほ場による差が大きく、発病株率100%の多発ほ場も一部にみられる（平成23年度注意報第3号参照）

イ 病斑の「進行型」率は13.3%（平年2.3%、前年0%）であった（+）。

ウ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年並か高く、降水量は平年並とされている（±）。

##### (3) 防除上の注意

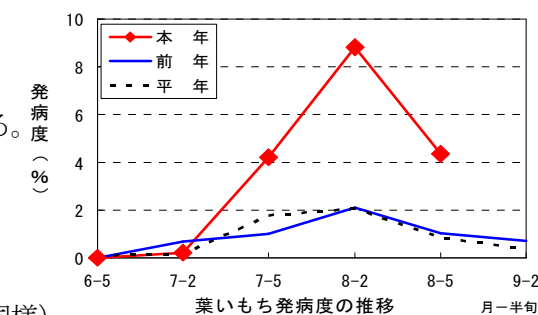
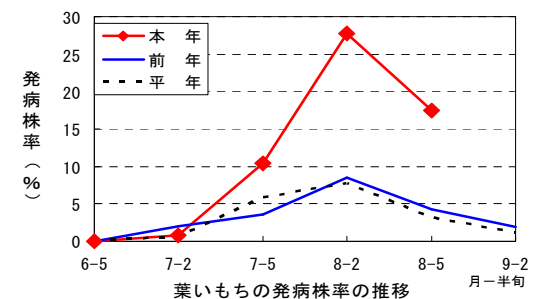
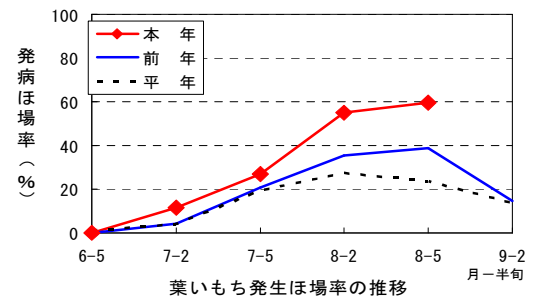
ア 葉いもちが発生しているほ場では、薬剤防除を徹底するとともに、適切な肥培管理に努める。

イ いもち病の常発地や葉色の濃いほ場、モチなどの晩生品種では、発生状況を必ず確認し、今後の発生状況に十分注意する。

ウ 穂いもちに対する薬剤防除を実施する場合、薬剤によって使用時期（収穫前日数）が異なるので、使用基準を確認する。

エ 粒剤を施用する場合は、散布後7日間止水する。

オ 薬剤は「平成23年度普通作物病害虫・雑草防除の手引き」を参照し、農薬使用基準を遵守する（以下の病害虫についても同様）。



#### 2 紋枯病

##### (1) 予報の内容

発生量：平年・前年より少

##### (2) 予報の根拠

ア 8月5半旬調査の結果、発生量は平年より少なかった（-）。

発病株率 1.4%（平年 7.3%、前年 1.4%）

発生ほ場率 8.3%（平年 42.6%、前年 24.5%）

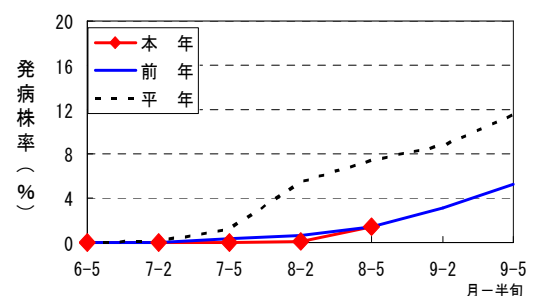
イ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年並か高く、降水量は平年並とされている（+）。

##### (3) 防除上の注意

ア 出穂期以降も、病斑の上位進展が認められる場合は防除を行う。

イ 薬剤によって使用時期（収穫前日数）が異なるので、使用基準を確認する。

ウ 粒剤を施用する場合は、散布後7日間止水する。



### 3 トビイロウンカ

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年より少

(2) 予報の根拠

ア 8月5半旬調査の結果、発生量は平年より少なかった(－)。

10株当たり成虫数 0.35頭(平年 1.39頭、前年 1.19頭)  
発生ほ場率 23.9%(平年 42.9%、前年 55.1%)

イ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年並か高いとされている(+)。

(3) 防除上の注意

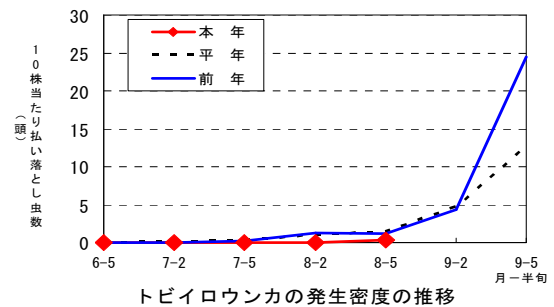
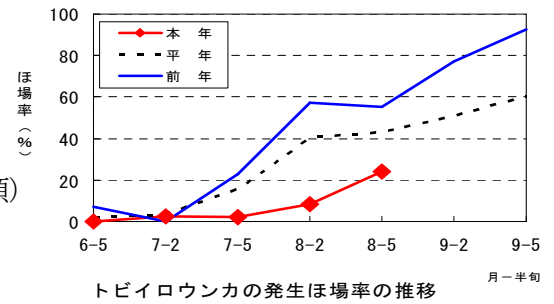
ア 本年は飛来回数及び量ともに少なかった。

しかし、本種は発生初期には低密度でも世代を経るごとに急激に増加するので、ほ場での発生状況を必ず確認する。  
発生密度が要防除水準を超えたほ場では防除を実施する。

要防除水準：9月上旬～中旬の老齢幼虫及び成虫の合計密度が、1株当たり5頭。

イ 出穂後は薬剤が株元まで到達しにくくなるため、株元に確実に届くよう注意して散布する。

ウ 収穫期が近づいていることから、薬剤散布に際しては収穫前日数に注意する。



### 4 コブノメイガ

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年より少

(2) 予報の根拠

ア 8月5半旬調査の結果、発生量は平年より少なかった(－)。

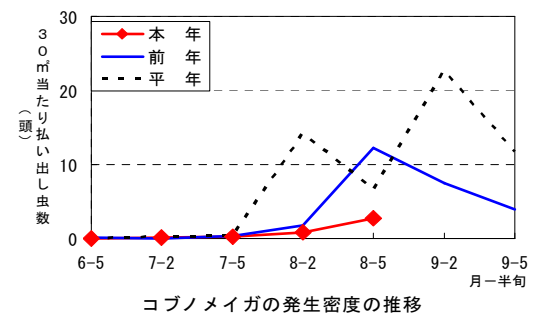
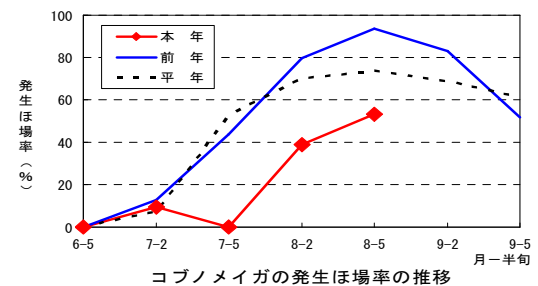
食害株率 4.9%(平年 19.2%、前年 30.3%)  
30㎡当払出し成虫数 2.7頭(平年 6.6頭、前年 12.2頭)  
発生ほ場率 53.2%(平年 73.7%、前年 93.8%)

イ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年並か高く、降水量は平年並とされている(+)。

(3) 防除上の注意

ア コブノメイガの防除適期は、発蛾最盛期から1週間後である。

イ 成虫は窒素過多、遅植え等の葉色の濃いほ場に集中して産卵するため、発生状況に注意する。



### 5 斑点米カメムシ類

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

(2) 予報の根拠

ア 8月5半旬調査(水田内の片振り20回すくい取り)の結果、発生量は平年並であった(±)。

アカスジカスミカメ

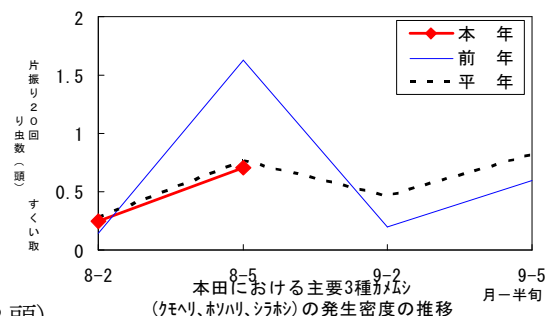
25株当たり虫数 0.3頭(平年 0.7頭、前年 1.3頭)  
発生ほ場率 17.4%(平年 18.3%、前年 20.9%)

ミナミアオカメムシ

25株当たり虫数 0.1頭

(過去8か年平均 0.1頭、前年 0.2頭)

発生ほ場率 12.5%(過去8か年平均 2.8%、前年 4.7%)



主要3種カメムシ（ケホリカメムシ、ホリカメムシ、シホカメムシ）

25株当たり虫数 0.5頭（平年 0.8頭、前年 1.6頭）

発生ほ場率 24.8%（平年 20.1%、前年 18.6%）

イ 県下5地点の予察灯における8月1半月～4半月の誘殺虫数は、アカスジカスミカメムシはやや多かったが、主要3種とミナミアオカメムシは少なかった（-）。

アカスジカスミカメ

635頭（平年 543.3頭、前年 719頭）

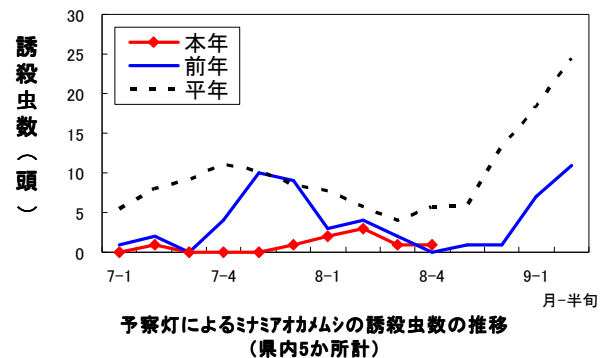
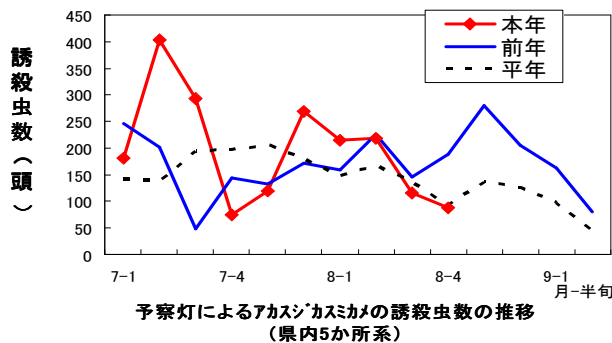
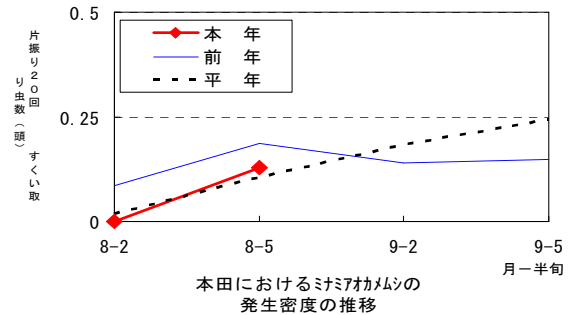
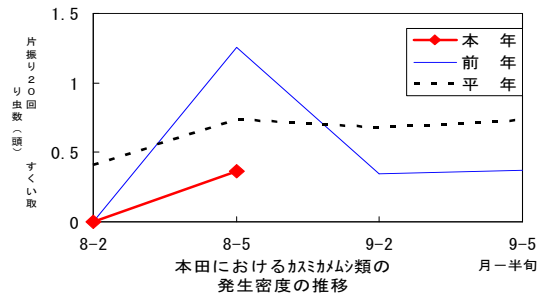
ミナミアオカメムシ

7頭（過去8か年平均 22.9頭、前年 9頭）

主要3種カメムシ（ケホリカメムシ、ホリカメムシ、シホカメムシ）

13頭（過去6か年平均 35.7頭、前年 117頭）

ウ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年並か高いとされている（+）。



### (3) 防除上の注意

ア 防除適期は穂揃い期及びその7～10日後である。

カメムシ類は広範囲に移動するので、できるだけ広域一斉防除を実施する。

イ 防除が実施されたほ場においても、カメムシ類の再飛来には十分注意する。

穂揃い期散布後の見取り調査で、斑点米カメムシ類の合計虫数が、100株当たり2～4頭を超える場合は、その7～10日後に補正防除を行う。

ウ ミナミアオカメムシに対しては、シラフルオフエン剤の防除効果が低いので、効果の高いクロチアニジン剤またはジノテフラン剤等を使用する。

## 【普通作物：大豆】

### 1 ハスモンヨトウ

#### (1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや多

#### (2) 予報の根拠

ア 8月5半月調査の結果、発生量は平年よりやや多かった（+）。

25株当たり幼虫数 46.2頭（平年 18.6頭、前年 19.4頭）

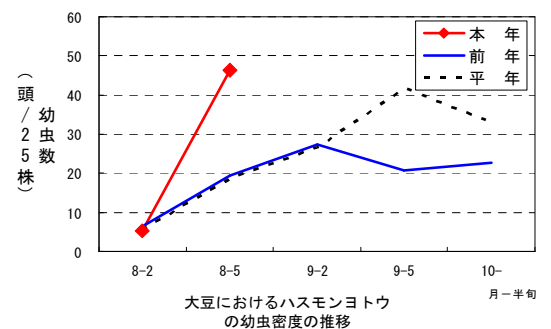
発生ほ場率 92.9%（平年 60.9%、前年 62.5%）

イ 8月1半月～4半月のフェロモントラップにおける誘殺虫数は、地域によって異なる（±）。

筑紫野市 373.3頭（平年 728.0頭、前年 931頭）

柳川市 2518頭（前々年 928頭、前年 1301頭）

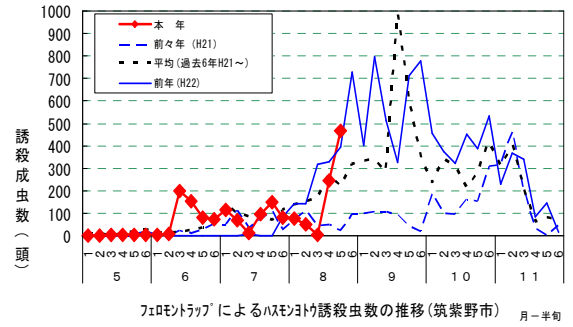
行橋市 148.1頭（前々年 954.2頭、前年 83.4頭）



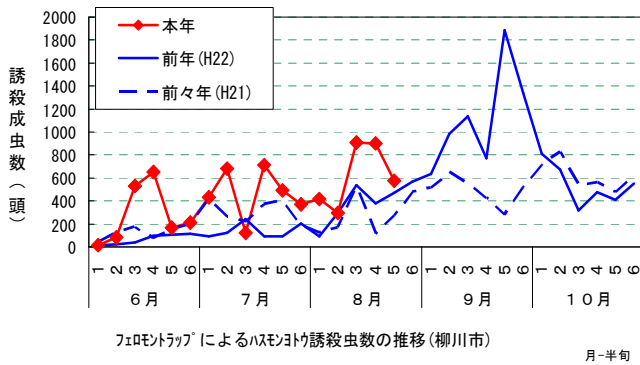
ウ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年並か高く、降水量は平年並とされている(+)。

(3) 防除上の注意

- ア 分散前の若齢幼虫が群棲している白変葉は、見つけ次第除去する。
- イ 薬剤散布は、防除効果が高い若齢幼虫期(9月上旬頃)に実施する。
- ウ 防除適期は、フェロモントラップの誘殺ピークから10日目頃であるが、地域によって誘殺数に差があるので、ほ場において若齢幼虫の食害で生じる白変葉の発生状況を必ず確認する。
- エ 近隣にフェロモントラップが設置されていない場合は、病害虫防除所ホームページのフェロモントラップ誘殺状況(筑紫野市、柳川市、行橋市)を参考にする。

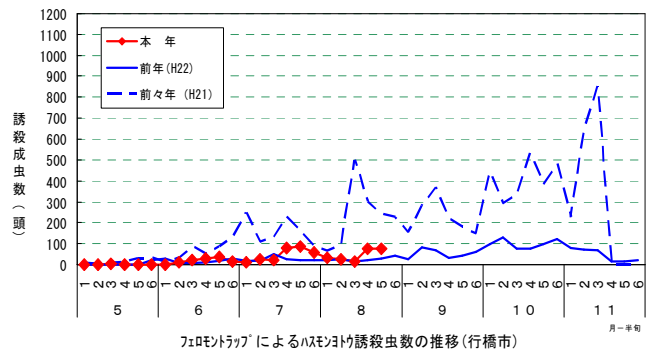


フェロモントラップによるハスモンヨトウ誘殺虫数の推移(筑紫野市) 月-半旬



フェロモントラップによるハスモンヨトウ誘殺虫数の推移(柳川市)

月-半旬



フェロモントラップによるハスモンヨトウ誘殺虫数の推移(行橋市)

月-半旬

2 吸実性カメムシ類

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

(2) 予報の根拠

ア 8月5半旬調査の結果、発生量は平年並であった(±)。

ミナミアオカメムシ

25株当たり虫数 0.1頭

(過去8か年平均 0.04頭、前年 0頭)

発生ほ場率 6.3%(平年 1.3%、前年 0%)

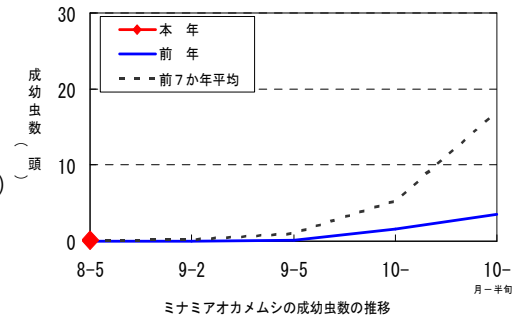
主要3種カメムシ(アオカメムシ、イモヅルカメムシ、ホリカメムシ)

25株当たり虫数 0.2頭(平年 0.21頭、前年 0頭)

発生ほ場率 12.5%(平年 10.1%、前年 0%)

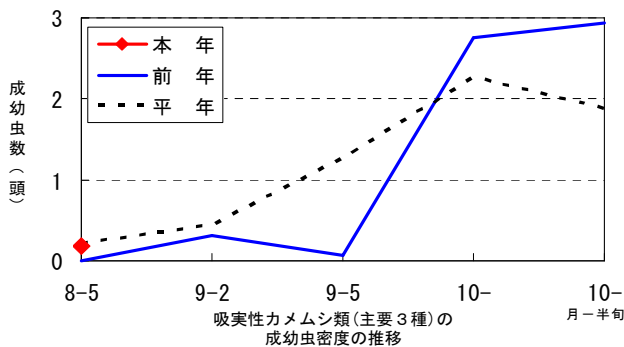
イ 県下5地点の予察灯における8月1半旬～4半旬のミナミアオカメムシの誘殺虫数は、7頭(過去8か年平均 22.9頭、前年 9頭)で、過去8か年平均より少なかった(-)。

ウ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年並か高いとされている(+)



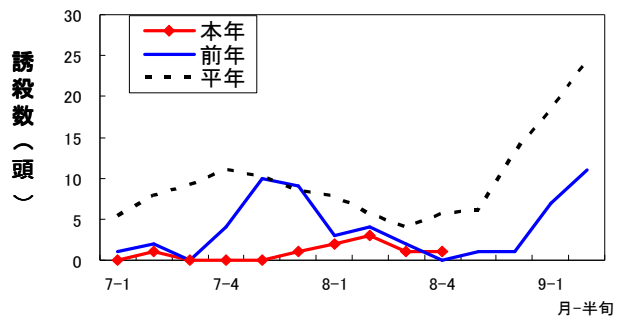
ミナミアオカメムシの成幼虫数の推移

月-半旬



吸実性カメムシ類(主要3種)の成幼虫密度の推移

月-半旬



ミナミアオカメムシの誘殺数

月-半旬

(3) 防除上の注意

- ア 防除適期は開花期後 30 日前後である。多発生の場合は 7～10 日後にも防除を行う。
- イ カメムシ類は広範囲に移動するので、できるだけ広域一斉防除を実施する。
- ウ ミナミアオカメムシに対しては、シラフルオフエン剤の防除効果が低いので、効果の高いクロチアニジン剤またはジノテフラン剤等を使用する。

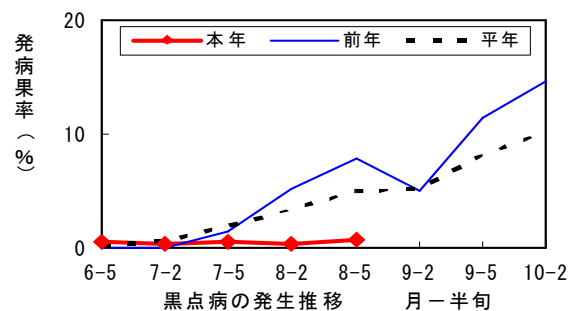
【普通作物：その他の病害】

作物名 病害虫名	発生量 (現況)	発生量 (9月の発生予報)		防除上注意すべき事項等
	平年比	平年比	前年比	
水稻 縞葉枯病	やや多	—	—	・ヒメトビウンカは、収穫後のイネ株等で越冬するので、収穫後は速やかに刈株をすき込む。

【果樹：かんきつ】

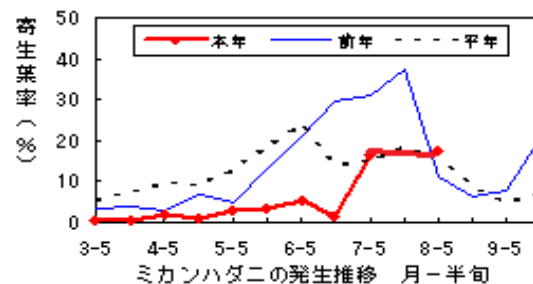
1 黒点病

- (1) 予報の内容  
発生量：平年・前年よりやや少
- (2) 予報の根拠  
ア 8月5半旬調査の結果、発生量は平年より少なかった(－)。  
発病果率 0.6% (平年 4.9%、前年 7.8%)  
発生ほ場率 27.3% (平年 49.1%、前年 75.0%)  
イ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年並か高く、降水量は平年並とされている(±)。
- (3) 防除上の注意  
ア 伝染源である枯枝は除去・処分する。  
イ 前回の防除から25日後又は積算降水量250mmになった時点を目安にし、降雨前の予防散布を徹底する。  
ウ 早生種は収穫期に入るので、防除に当たっては農薬使用基準を確認し、薬剤の選定に注意する。



2 ミカンハダニ

- (1) 予報の内容  
発生量：平年・前年並
- (2) 予報の根拠  
ア 8月5半旬調査の結果、発生量は平年並であった(±)。  
寄生葉率 17.9% (平年 16.4%、前年 11.2%)  
発生ほ場率 72.7% (平年 70.3%、前年 83.3%)  
イ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年並か高く、降水量は平年並とされている(±)。
- (3) 防除上の注意  
ア 薬液が葉裏に十分かかるよう丁寧に散布する。  
イ 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統薬剤の連用を避け、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。



【果樹：かき】

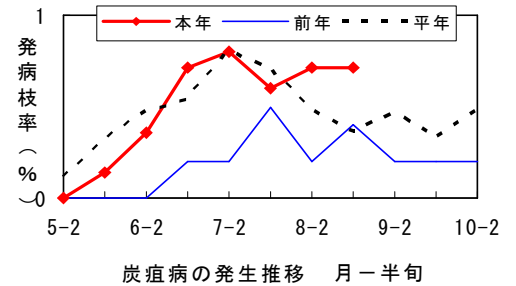
1 炭疽病

- (1) 予報の内容  
発生量：平年・前年やや多
- (2) 予報の根拠  
ア 8月5半旬調査の結果、発生量は平年よりやや多かった(+)。

- 発病枝率 0.7% (平年 0.4%、前年 0.4%)
  - 発生ほ場率 21.4% (平年 12.2%、前年 21.4%)
  - 発病果率 0.4% (平年 0.3%、前年 0.2%)
  - 発生ほ場率 28.6% (平年 19.3%、前年 14.3%)
- イ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年並か高く、降水量は平年並とされている(±)。

(3) 防除上の注意

- ア 伝染源である罹病枝や罹病果は除去・処分する。
- イ 台風等の強風雨が予想される場合や、罹病枝の多い園、本病に弱い品種(早秋)では、薬剤防除を徹底する。
- ウ 早生種は収穫期に入るので、防除の際は農薬使用基準を確認し、薬剤の選定に注意する。



## 2 フジコナカイガラムシ

(1) 予報の内容

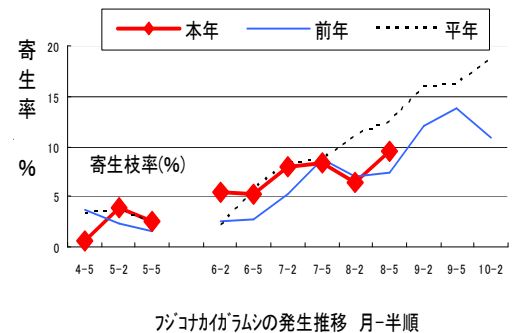
発生量：平年・前年並

(2) 予報の根拠

- ア 8月5半旬調査の結果、発生量は平年並であった(±)。  
寄生果率 9.5% (平年 12.4%、前年 7.4%)  
発生ほ場率 85.7% (平年 88.3%、前年 85.7%)
- イ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年並か高く、降水量は平年並とされている(±)。

(3) 防除上の注意

本種はヘタのすき間や葉と重なった果実表面に寄生しているため、薬液が十分かかるよう丁寧に散布する。



## 【果樹：共通】

### 1 カメムシ類

(1) 予報の内容

発生量：前年並 (平成20年よりやや少)

<参考：チャバネオカメムシの発生状況>

	本年	前年	平成20年<類似年>
越冬量 (頭/m <sup>2</sup> )	0.7	2.0	0.5
ヒキ球果着生量	中	やや少	やや多
発生型	—	後期	後期

(2) 予報の根拠

- ア 県下6か所の予察灯における8月1～5半旬の主要3種カメムシの合計誘殺数は5,797頭で前年・平成20年より少なかった(前年12,139頭、平成20年10,537頭)。  
しかし、チャバネオカメムシの予察灯での誘殺数は、県下3か所(筑紫野市、うきは市、八女市)で8月5半旬から増加している(±)。
- イ 県下29か所における8月5半旬のヒノキ球果のビーティング調査では、主要3種(チャバネオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ)の寄生虫数は平均6.1頭/か所で、前年並、平成20年より少なかった(前年9.3頭、平成20年24.0頭)(-)。
- ウ 県下29か所における8月5半旬のヒノキ球果の口針鞘数調査の結果は、平均9.7本/球果で前年・平成20年より少なかった(前年13.7本、平成20年16.9本)(-)。
- エ 本年度のヒノキ球果の着生量は「中」で、昨年よりやや多く、平成20年よりやや少であった(±)。
- オ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年並か高く、降水量は平年並とされている(±)。

(3) 防除上の注意

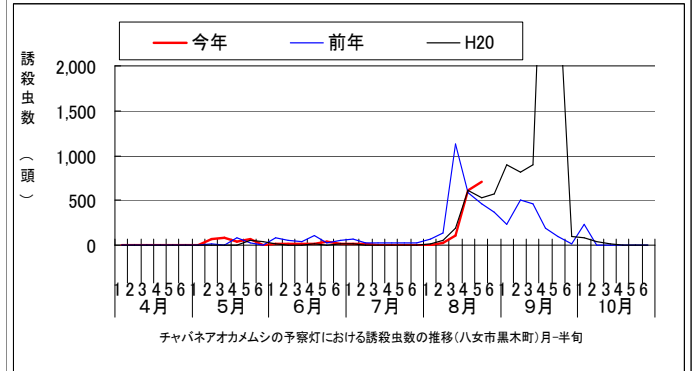
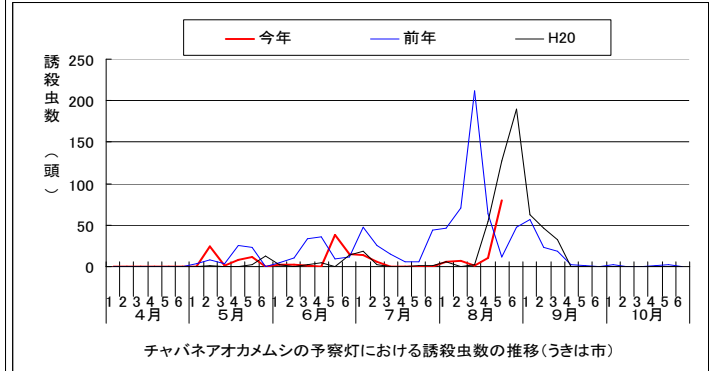
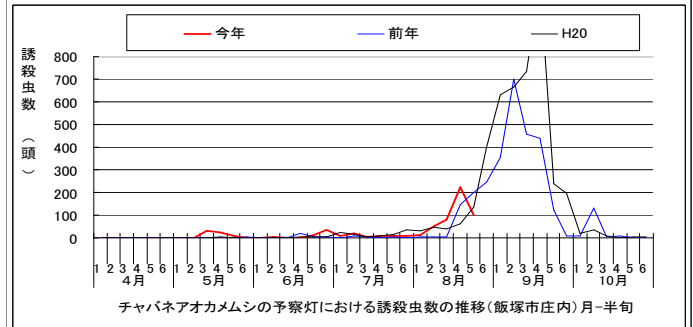
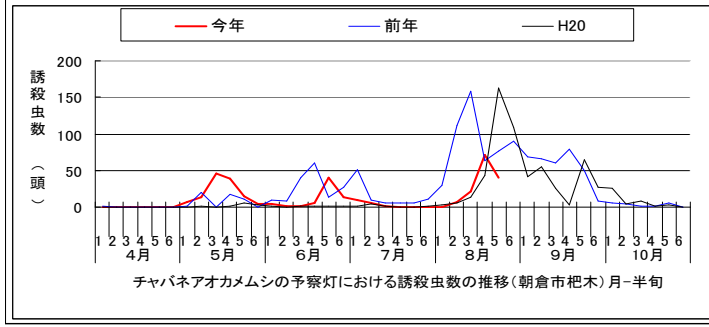
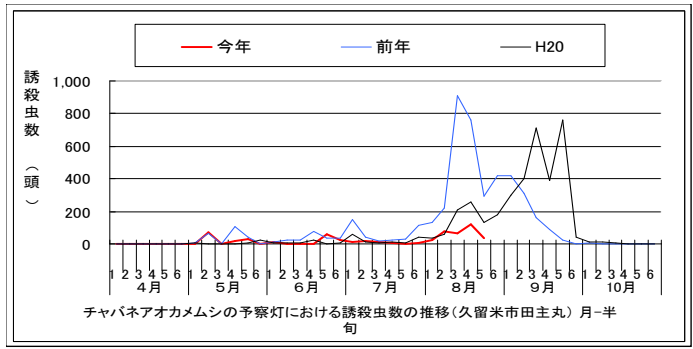
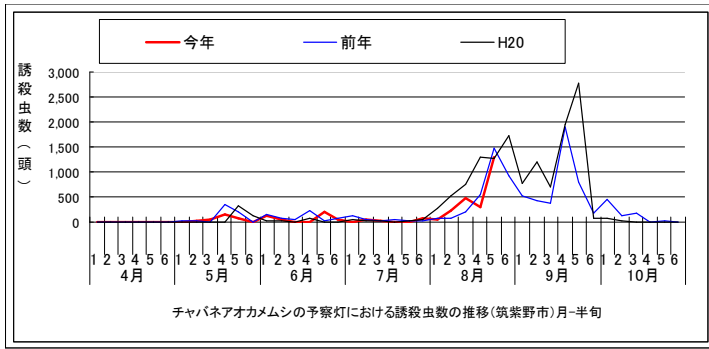
- ア 筑後支所管内では、ヒノキ1球果当たりの口針鞘数が、すでに25本を超えている地域があり、果樹園に飛来が見られているので、果樹園内外を見回り、園への飛来確認に努める。
- イ カメムシ類は広範囲に移動するため、広域一斉防除の効果が高い。
- ウ 樹種によって使用可能な薬剤が異なるので、使用基準や使用回数等を遵守する。
- エ 最新の果樹カメムシ類の発生状況については、病害虫防除所ホームページを参照する。



表 ヒノキ球果の口針鞘数及びヒノキのピーティング調査によるカメムシ類の寄生虫数 調査時期：2011 8月5半旬

調査場所	口針鞘数調査		ピーティング調査 (頭)														3種合計
	ヒノキ球果		チャバネアオカメムシ										ツヤアオカメムシ			クサギカメムシ	
	被害球果率 (%)	口針鞘数 (本)	成虫数	幼虫数					計	成虫数	幼虫数	計	成虫数	幼虫数	計		
		1令		2令	3令	4令	5令	計									
宗像市山田	100	12.5	2	0	0	3	4	1	8	10	0	1	1	0	0	0	11
糸島市前原	100	7.0	4	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	4	
古賀市青柳	100	7.5	1	0	0	0	1	1	2	3	0	0	0	0	1	4	
久留米市田主丸町益生田	70	12.6	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2	1	3	
久留米市田主丸町森部	95	13.2	1	0	0	0	1	2	3	4	0	0	0	0	0	4	
うきは市浮羽町小塩	85	12.7	7	0	0	0	0	0	0	7	0	0	0	1	0	8	
朝倉市長谷山	90	3.2	1	0	0	0	0	3	3	4	0	0	0	0	0	4	
朝倉市栢原	60	2.3	0	0	0	0	1	0	1	1	0	0	0	0	0	1	
朝倉市屋形原	75	1.9	1	0	0	0	0	1	1	2	0	0	0	1	0	3	
朝倉市宮野	90	15.1	1	0	1	0	0	1	2	3	0	0	0	1	0	4	
朝倉市三奈木	30	1.2	0	1	1	0	0	0	2	2	1	0	1	0	0	3	
朝倉市志波	85	5.6	1	0	1	0	0	0	1	2	0	0	0	0	0	2	
飯塚市入水	95	5.6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
筑紫野市吉木	95	5.9	3	0	3	0	1	0	4	7	0	0	0	1	0	8	
平均 (14か所)	82.7	7.6	1.6	0.1	0.4	0	0.6	0.6	1.9	3.6	0.1	0.1	0.1	0.4	0.1	0.6	4.3
大牟田市上内	100	30.2	2	0	3	4	2	4	13	15	0	0	0	0	0	15	
みやま市山川町立山	100	7.9	5	0	0	1	0	6	7	12	1	0	1	0	0	13	
八女市立花町白木	95	7.1	8	0	0	0	1	0	1	9	0	0	0	0	0	9	
八女市立花町飛形山	100	21.1	5	0	0	2	1	4	9	1	0	1	1	0	1	11	
八女市黒木町野田山	40	2.7	1	0	1	0	1	0	2	3	0	0	0	0	0	3	
八女市黒木町今	100	23.9	4	0	0	0	0	0	4	4	0	0	0	1	0	5	
八女市黒木町本分	100	9.2	1	0	1	1	0	1	3	4	0	0	0	0	0	4	
広川町穂	100	16.8	3	1	5	3	1	3	13	16	0	0	0	0	0	16	
八女市宇間田	100	8.8	1	0	1	0	0	0	1	2	0	0	0	0	0	2	
平均 (9か所)	94	14.2	3.3	0.1	1.2	1.2	0.7	1.7	5.7	8.2	0.2	0.0	0.2	0.2	0.0	0.2	9.4
行橋町上畑	80	4.6	2	0	0	1	1	0	2	4	0	0	0	0	0	4	
行橋町戸切	100	9.5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	1	
みやこ町屋川町木山	80	3.0	0	0	0	3	0	0	3	3	0	0	0	0	0	3	
上毛町唐原	80	5.7	0	0	0	1	0	0	1	1	0	0	0	1	0	2	
築上町寒田	15	0.6	6	2	0	1	0	0	3	9	0	0	0	1	0	10	
築上町本庄	90	10.7	2	0	2	0	0	0	2	4	0	0	0	0	0	4	
平均 (6か所)	74	5.7	1.7	0.3	0.3	1.0	0.2	0	1.8	3.5	0.0	0	0.2	0.3	0	0.3	4.0
平均 (29か所)	84.3	9.7	2.3	0.2	0.8	0.8	0.5	1.0	3.3	5.5	0.1	0.1	0.2	0.3	0.1	0.4	6.1
チャバネアオカメムシの年齢構成	県内平均 (%)		41.8	3.6	14.5	14.5	9.0	18.1	59.7	100	成虫・幼虫比 (%)	成虫・幼虫比 (%)					-
	筑後支所管内平均 (%)		40.2	1.2	14.6	14.6	8.5	20.7	59.6	100	100	0	100	100	0	100	-
H22	80.8	13.7	4.7	0.0	1.0	0.5	0.8	0.9	3.1	7.8	1.1	0.3	1.3	0.1	0.1	0.2	9.3
H21	99.7	20.1	3.8	0.0	0.7	0.7	1.2	1.5	4.1	7.9	1.0	0.2	1.2	0.0	0.0	0.0	9.1
H20	95.0	16.9	10.1	0.3	0.8	1.3	1.2	1.0	4.6	14.7	6.4	2.1	8.6	0.3	0.1	0.5	24
H19	90.0	15.5	1.3	0.3	0.6	0.4	1.0	0.6	2.8	4.0	0.3	1.0	1.3	0.1	0	0.1	5.4
H18	98.2	19.1	8.6	0	0.2	0.4	1.1	1.7	3.3	11.9	2.1	0.7	2.7	0.1	0.1	0.3	14.9

注1 口針鞘数調査は1地点当たり20球果、口針鞘数は20球果の平均  
 注2 ピーティング調査は、1地点5枝、1枝当たり5回のたたき落として、その合計虫数  
 注3 チャバネアオカメムシの卵から次世代の成虫になるまでの期間は、夏期の温度では約30~40日



**【果樹：その他の病害虫】**

作物名 病害虫名	発生量 (現況)	発生量 (9月の発生予報)		防除上注意すべき事項等
	平年比	平年比	前年比	
カキ うどんこ病	やや少	やや少	やや多	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防除に当たっては、薬液が葉裏に充分かかるよう丁寧に散布する。</li> <li>・防除に当たっては、幼虫は葉が重なった部分や、へたと果実の間に多く潜んでいるため、薬液を高圧で充分かかるように散布する。</li> </ul>
ハマキムシ類	並	並	並	

**【茶】**

**1 炭疽病**

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

(2) 予報の根拠

ア 8月5半旬調査の結果、発生量は平年並であった(±)。

発病葉数 0.3葉 (平年 0.6葉、前年 0.1葉)

発生ほ場率 33.3% (平年 23.5%、前年 11.1%)

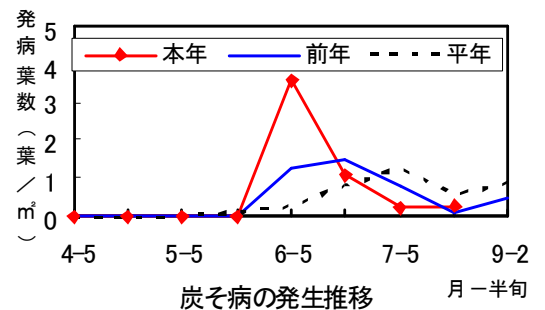
イ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年並か高く、降水量は平年並とされている(±)。

(3) 防除上の注意

ア 秋芽での発生に注意し、新芽の3葉期までに防除を行う。

イ 雨滴により孢子が飛散伝搬するので、降雨前の防除効果が高い。

ウ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を避け、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。



**2 もち病**

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年並。

(2) 予報の根拠

ア 8月5半旬調査の結果、発生量は平年よりやや少なかった(-)。

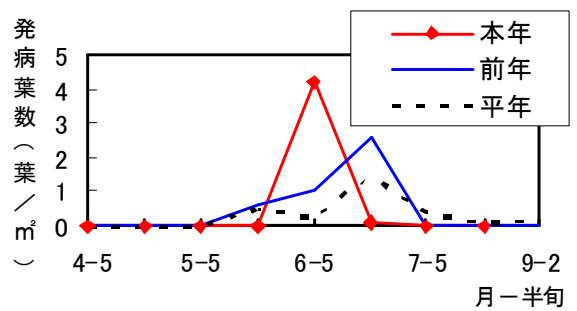
発病葉数 0葉 (平年 0.09葉、前年 0葉)

発生ほ場率 0% (平年 2.3%、前年 0%)

イ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年並か高く、降水量は平年並とされている(±)。

(3) 防除上の注意

ア 降雨が多いと、感染～発病しやすくなるので、発生の恐れのある園では萌芽から1葉期までに防除を行う。



**3 輪斑病**

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

(2) 予報の根拠

ア 8月5半旬調査の結果、発生量は平年並であった(±)。

発病葉数 0.2葉 (平年 0.3葉、前年 0.7葉)

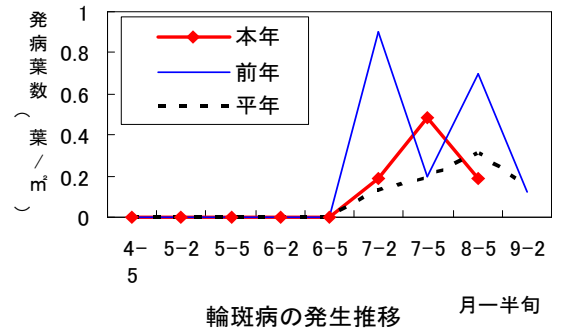
発生ほ場率 22.2% (平年 11.3%、前年 16.7%)

イ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年並か高く、降水量は平年並とされている（±）。

(3) 防除上の注意

ア 葉や茎の傷口から病原菌が侵入感染するため、台風等の強い風雨の後では、傷口の増加によって、感染が急速に拡大する場合があります。

降雨後は速やかに（翌日までに）防除を行う。



#### 4 チャノコカクモンハマキ

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや少

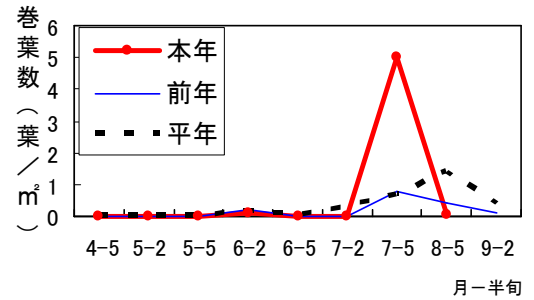
(2) 予報の根拠

ア 8月5半旬調査の結果、発生量は平年よりやや少なかつた（-）。

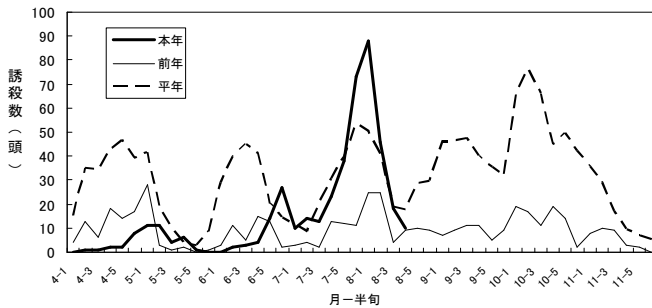
被害葉数 0.1葉（平年1.4葉、前年0.4葉）

発生ほ場率 5.6%（平年28.4%、前年16.7%）

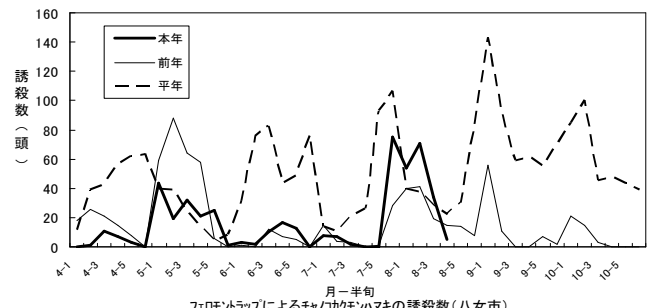
イ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年並か高く、降水量は平年並とされている（±）。



チャノコカクモンハマキの発生推移



フェロモントラップによるチャノコカクモンハマキの誘殺数(筑後市)



フェロモントラップによるチャノコカクモンハマキの誘殺数(八女市)

(3) 防除上の注意

ア 第3世代成虫の発蛾最盛期は、9月上～中旬頃と予想されるので、ほ場での成虫の発生に注意し、成虫が最も多いときから7日後を目安に防除を行う。

イ 巻葉後は防除効果が劣るため、巻葉が見られたら直ちに防除を行う。

#### 5 チャノホソガ

(1) 予報の内容

発生量：平年より少、前年並

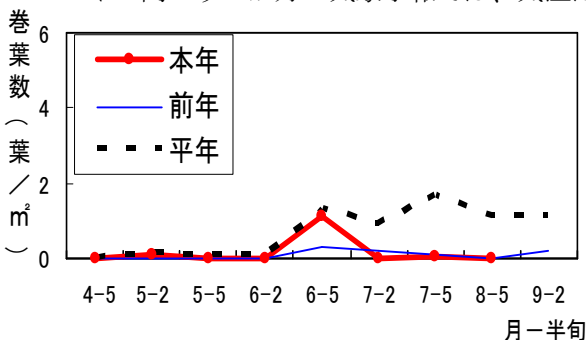
(2) 予報の根拠

ア 8月5半旬調査の結果、発生量は平年より少なかつた（-）。

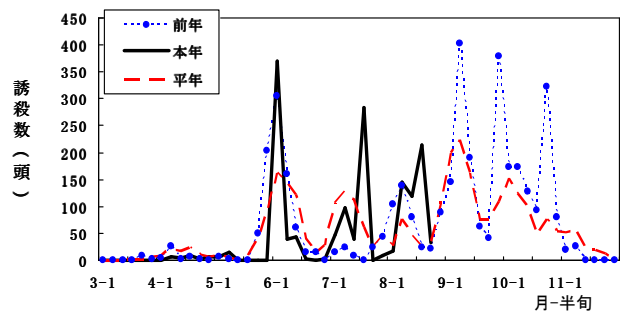
被害葉数 0葉（平年1.1葉、前年0葉）

発生ほ場率 0%（平年23.8%、前年0%）

イ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年並か高く、降水量は平年並とされている（±）。



チャノホソガの発生推移



フェロモントラップによるチャノホソガの誘殺数(八女市)

### (3) 防除上の注意

- ア 第3世代成虫の発蛾最盛期は、9月旬月上旬頃と予想されるので、ほ場での成虫の発生に注意し、成虫が最も多いときから7日後を目安に防除を行う。
- イ 巻葉後は防除効果が劣るため、巻葉が見られたら直ちに防除を行う。

## 6 チャノミドリヒメヨコバイ

### (1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

### (2) 予報の根拠

- ア 8月5半旬調査の結果、発生量は平年並であった(±)。

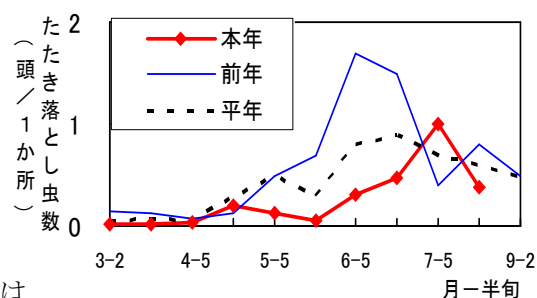
たたき落とし虫数 0.4頭(平年 0.6頭、前年 0.8頭)

発生ほ場率 38.9%(平年 48.3%、前年 61.1%)

- イ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年並か高く、降水量は平年並とされている(±)。

### (3) 防除上の注意

- ア たたき落とし(A4版上)で5頭以上発生している場合は防除を行う。
- イ 新芽の萌芽から開葉期を重点に防除する。
- ウ 効果の高い薬剤が少ないので、多発する前に防除する。



チャノミドリヒメヨコバイの発生推移

## 7 カンザワハダニ

### (1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや少

### (2) 予報の根拠

- ア 8月5半旬調査の結果、発生量は平年より少なかった(ー)。

寄生葉率 0.7%(平年 3.4%、前年 9.6%)

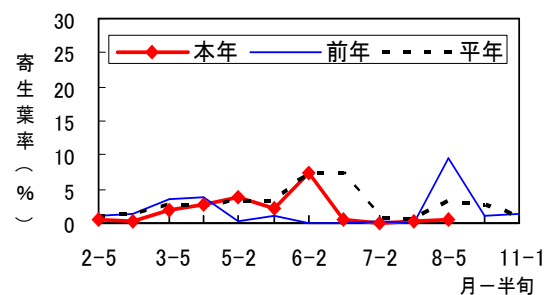
50葉当たり虫数 0.5頭(平年 10.0頭、前年 39.9頭)

発生ほ場率 11.1%(平年 37.4%、前年 50.0%)

- イ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年並か高く、降水量は平年並とされている(±)。

### (3) 防除上の注意

- ア 発生状況をよく観察し、寄生葉率が2%以上の場合は防除を行う。
- イ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を避け、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。



カンザワハダニの発生推移

## 8 チャノキイロアザミウマ

### (1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや少

### (2) 予報の根拠

- ア 8月5半旬調査の結果、発生量は平年よりやや少なかった(ー)。

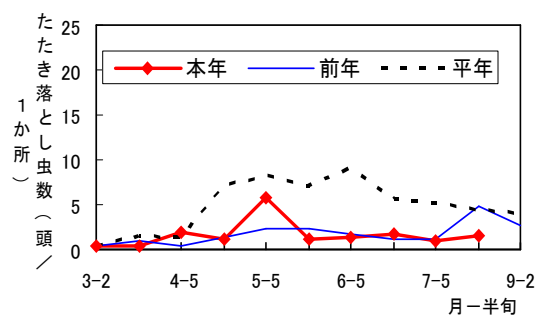
たたき落とし虫数 1.6頭(平年 4.5頭、前年 4.8頭)

発生ほ場率 77.8%(平年 90.0%、前年 88.9%)

- イ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年並か高く、降水量は平年並とされている(±)。

### (3) 防除上の注意

- ア たたき落とし(A4版上)で13頭以上発生している場合は防除を行う。
- イ 新芽の萌芽から開葉期を重点に防除する。



チャノキイロアザミウマの発生推移

## 【野菜：イチゴ】

### 1 炭疽病(育苗期)

#### (1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多、前年よりやや少

#### (2) 予報の根拠

ア 8月5日半旬調査の結果、発生量は平年よりやや多かった(+)。

発病株率 0.15% (過去3か年平均 0.12%、前年 0.2%)

発生ほ場率 30.0% (過去3か年平均 13.3%、前年 18.2%)

イ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年並か高く、

降水量は平年並とされている(+)

#### (3) 防除上注意すべき事項

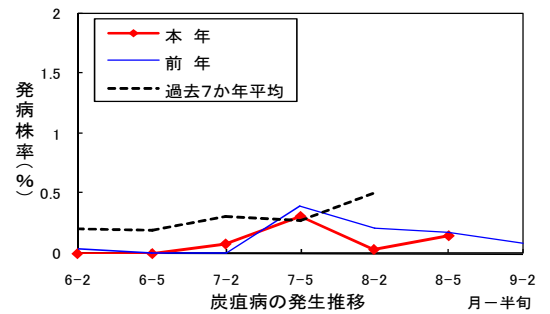
ア 罹病苗や感染が疑わしい苗及びその周辺苗は除去・処分する。

イ 苗の選別には注意し、感染の可能性がある生育不良株は定植しない。

ウ 定植後の枯死株は周囲の土ごと掘り取り、残渣を残さないようにして、ほ場外に持ち出し処分する。

エ ビニルの被覆までは、ハウス内で新たに感染する恐れがあるので、定期的に防除を行う。

オ 雨よけビニル及び寒冷紗被覆をしているほ場では、風通しを良くする。



### 2 ハダニ類(育苗期)

#### (1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや少

#### (2) 予報の根拠

ア 8月5日半旬調査の結果、発生量は平年より少なかった(-)。

寄生株率 5.1% (過去3か年平均 20.8%、前年 17.1%)

イ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年並か高く、

降水量は平年並とされている(+)

#### (3) 防除上注意すべき事項

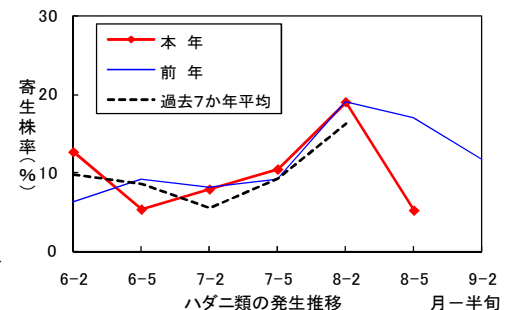
ア 多発後は防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。

イ 摘葉した葉はほ場内に放置せず、ビニル袋等に入れ、密封し処分する。

ウ 夜冷短日や低温暗黒などの処理を行う場合は、入庫前に防除を行い、本ほにハダニを持ち込まないようにする。

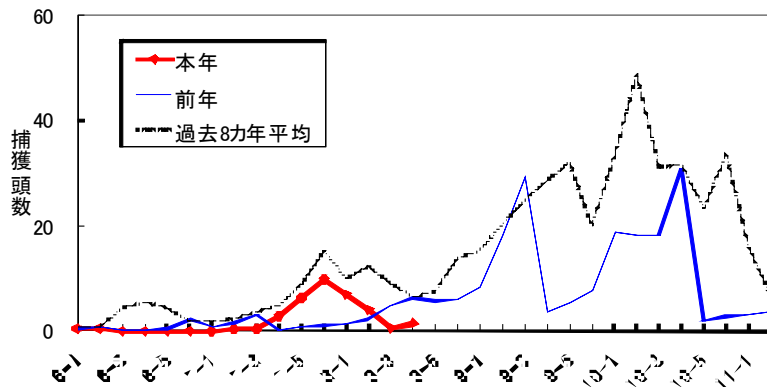
エ 本ほで天敵を利用する場合、育苗後半は天敵類への影響が長い有機リン系、カーバメイト系、合成ピレスロイド系、ピラゾール系の薬剤は使用しない。

オ ほ場内や周辺の除草を徹底する。



【野菜：その他の病害虫】

作物名 病害虫名	発生量 (現況)	発生量 (9月の発生予報)		防除上注意すべき事項等
	平年比	平年比	前年比	
アスパラガス 斑点性病害	やや多	やや多	やや多	<ul style="list-style-type: none"> <li>過繁茂にならないように摘葉を行い、ほ場内の通風をよくする。</li> <li>多発生後は防除が困難になるので、発生状況に注意し、防除を徹底する。</li> <li>早期発見に努め、若齢幼虫のうちに防除を徹底する。</li> </ul>
アザミウマ類	やや多	やや多	やや多	
チョウ目 (ハモンヨトウ・オオタバコガ)	やや多	並	並	
野菜共通 ハスモンヨトウ	やや多	並	並	<ul style="list-style-type: none"> <li>若齢幼虫は群生しているため、かすり状の葉を見つけ次第、除去・処分する。</li> <li>今後の発生状況については、病害虫防除所のホームページを参照のこと（以下の害虫のついても同様）。</li> <li>薬剤防除は、孵化直後の幼虫を対象に実施する。</li> <li>早期発見に努め、初期発生のうちに防除を徹底する。</li> </ul>
オオタバコガ	並	並	並	
コナジラミ類	やや少	並	並	



トマト苗トラップでのタバココナジラミ類捕獲頭数の推移 (筑後市) 月-半月

福岡県病害虫防除所では、病害虫の発生状況と防除についてホームページでお知らせしています。

ホームページ <http://www.jpnpn.ne.jp/fukuoka/>  
 電子メール [byougaichuboujyo@pref.fukuoka.lg.jp](mailto:byougaichuboujyo@pref.fukuoka.lg.jp)

## 農薬の安全・適正使用、飛散防止対策の徹底を！

福岡県では、農薬の安全かつ適正な使用及び保管管理、使用現場における周辺への配慮を周知徹底するとともに、農薬による事故防止を目的として、安全使用講習会の開催や啓発チラシの配布等に関係機関、団体と一体となって取り組んでいます。

使用者の安全はもちろん、人畜・隣接作物・河川等への配慮について、ご指導をお願いします。

### 1 農薬適正使用の徹底

- 適用作物、使用量や濃度、使用時期、総使用回数などの※ラベルをよく確認し、使用基準を遵守する。  
※農薬の種類によっては、登録の内容がメーカーによって異なるので、ラベルをよく確認する。  
(例：スミチオン水和剤40は、メーカーによって適用作物名や適用病害虫名が異なる)

### 2 飛散防止対策の徹底

- 風向、散布方向、散布時間、散布圧などに留意する。
- 飛散しにくい農薬（剤型）や飛散が少ないドリフトレスノズルを使用する。
- 散布ほ場周辺の収穫前の作物には十分注意する。

### 3 保護具の着用

- 農薬の散布時には、ラベルの注意・警告マークをよく確認し、マスク、保護メガネ、ゴム手袋等を着用する。

### 4 農薬の散布後は、必ず散布器具を洗浄

- 噴霧器、薬液タンク、ホースなどの散布器具を十分に洗浄する。

### 5 防除履歴の記帳

- 薬剤散布が終わったら、作物名、ほ場の場所、使用年月日、薬剤名、使用濃度、使用量等を正確に記帳する。

### 6 空容器の処分

- 空容器は、産業廃棄物処理業者に委託するなど、適切な処分を行う。  
また、野焼きは法令で禁止されているので行わない。